

令和4年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	06	01	03	164090	6次産業化推進事業費		
総合計画	分野	01	しごと	政策	05 農工商観連携の推進		
	施策	02	特産品の開発				
目的	花巻産の農畜産物に新たな付加価値を生み出すため、新商品の開発や販路拡大等の支援を行う。						
対象	市内農業者、市内企業						
意図	特産品の開発と販路の拡大による所得向上						
事業概要	○6次産業化セミナー・個別相談会の開催 330千円 6次産業化実践者及び志向者を対象としたセミナー・個別相談会の開催 ○農工商連携推進 1,031千円 新たな加工品開発等にかかる農工商連携事業補助金の交付						
市民参画の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05	
1	セミナー・講習会開催回数	回	計画	4.00	3.00		
			実績	0.00	2.00		
2			計画				
			実績				
3			計画				
			実績				
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05	
1	市の支援により地場産品の高付加価値化に取り組んでいる事業件数	件	目標	5.00	5.00		
			実績	3.00	3.00		
2			目標				
			実績				
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度			目標値より高い		概ね目標値どおり	○	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
継続的にセミナー等に参加してきた事業者については、おおかた事業の方向性が固まったことから、新規で事業に取り組む件数が減少している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	農工商連携による農業者等の所得向上はもとより、多業種の企業の新たな取り組みや戦略展開の支援は、地域経済の活性化に直結するため、市内中小企業の育成の観点からも、市の支援により取り組む必要がある。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	支援制度の更なる周知により、企業の掘り起こしを図ることが可能となる。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最小限の補助金交付が事業の主体であるため、削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	全ての市内中小企業を対象としており、意欲さえあれば広く制度を活用することができるため、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
費用負担の見直し余地がある		
総合評価	○ 適正である	
	今年度の振り返り	セミナー及び個別相談会併せて、のべ22名の参加があった。前回実施年度（令和2年度）よりも減少しているが、アンケート結果からは内容について好評であったことが確認された。
次年度に向けて	6次産業化に取り組む事業者については固定化、減少傾向にあるが、既存事業者のステップアップと新規事業者の発掘に向けて、引き続きセミナーと個別相談会を実施していく。	

令和4年度  
事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名				
01	06	01	03	164360	花巻クラフトワイン・シードルブランド化推				
総合計画	分野	01	しごと	政策	05 農工商観連携の推進				
	施策	02	特産品の開発						
目的	ワイン・シードル産地の形成と認知度向上を図るため、ワイン・シードル製造者に対する支援や産地としてのPR活動を行う。								
対象	農業者、ワイナリー、ワイナリー建設志向者								
意図	果実酒の製造・販売による所得拡大と交流人口の増加								
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いわてワインヒルズ推進協議会負担金 50千円</li> <li>構成団体負担金</li> <li>○ワイン・シードル醸造志向者に対する支援 2,253千円</li> <li>醸造技術習得支援事業補助金、ワイナリー整備等事業補助金</li> <li>○花巻ワイン飲食店活用プロモーションイベント開催 6,086千円</li> <li>首都圏でのワインプロモーションイベントの開催</li> </ul>								
市民参画の有無	対象外								
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託			
活動指標			単位	区分	R03	R04	R05		
1	セミナー・講習会開催回数			回	計画	3.00	3.00		
					実績	0.00	0.00		
2					計画				
					実績				
3					計画				
					実績				
成果指標			単位	区分	R03	R04	R05		
1	新規ワイナリー設立件数			件	目標	1.00	1.00		
					実績	2.00	0.00		
2					目標				
					実績				
3					目標				
					実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		○		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
平成28年11月29日に国の構造改革特区「花巻クラフトワイン・シードル特区」の認定を受け、農業者等による新規ワイナリーの増加による、農産物の高付加価値化による所得向上、認知度向上を目指して、ワイナリー志向者を対象とした各種セミナーや相談・助言等による支援を継続的に実施している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、醸造志向者等を対象としたワイナリー建設に向けた知識を学ぶ機会を提供できず、今年度は新規のワイナリー設立がなかった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	高齢化や人口減少等、地方を取り巻く情勢が厳しさを増す中、地域活性化を図るため、地域資源の活用により雇用創出と所得向上、交流人口増加が期待できる果実酒製造を総合的に支援することが有効であるため。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	醸造技術やぶどう栽培技術の習得及び加工施設整備に対する支援により、新規ワイナリーが増加する余地はある。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業実施のための最低限の予算、人員で実施しているため。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	<input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	全ての農業者等を対象とした事業を実施しているため。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	<input type="radio"/> 適正である	
総合評価	今年度の振り返り	既存ワイナリーの経営安定を支援するため、WEBを活用してワイン需要の多い首都圏へ花巻産ワインをPRし、販路開拓へとつながるよう支援してきた。首都圏内の飲食店20店舗で約1か月間開催した「花巻ワインフェア」では、実際に飲んだお客様から好意的な評価を得ており、花巻産ワインの認知度向上が図られた。また、既存ワイナリーの事業拡大を目的とした設備導入費用、販路開拓に要する経費への補助金を交付した。
	次年度に向けて	大迫地域のワインは50年以上も歴史があり、国内外のワインコンクールでも高評価を受けているものの、近年の日本ワインの評価の高まりのなか、全国各地においてワイナリーが新設されていることもあり、『ワイン産地としての花巻』の全国的な認知度は低い。引き続き首都圏での花巻産ワインをPRするため、飲食店でのワインフェア実施に加えて、消費者にワイナリーが直接PRできるイベントへ参加するなど、さらなる情報発信に取り組んでいく。